

1918年3月のヨーロッパ

- 中央同盟国
- 中央同盟国の占領地域





1918-23年、中欧および東欧の  
新たな国境線



連合国によるオスマン帝国分割案 (1919年)



1918-19年に実行されたハンガリーの国土分割



凡例

本書は Robert Gerwarth, *The Unquashed: Why the First World War Failed to End, 1917-1923*, London: Allen Lane 2016 の全訳である。  
 原書のイタリック体は、強調の場合は傍点で、書名の場合は『』で示した。  
 文中の「」は原著者による。訳者による補足は「」で示した。  
 文中の引用箇所は、邦訳のあるものは原則として既訳に従い、原書と訳書の該当箇所を註に示した。邦訳のないものは訳者による。

カバー写真 ムスタファ・ケマル(アタテュルク)の軍に追われトルコのスミルナから避難するギリシヤ人たち。一九二二年九月。Photo by Topical Press Agency / Getty Images

ROBERT GERWARTH  
THE VANQUISHED

# 敗北者たち

第一次世界大戦はなぜ終わり損ねたのか 1917-1923

ローベルト・ゲルヴァルト

小原淳訳



みすず書房



9784622087618



1920022052001

ISBN978-4-622-08761-8

C0022 ¥5200E

定価（本体 5200 円+税）



第一次世界大戦はいつ終わったのか？  
1918年11月だ。だが、敗北者たちにとっ  
ては、それはまさに暴力の始まりだった。

ハプスブルク帝国、オスマン帝国、ドイ  
ツ帝国、ロシア帝国の崩壊、革命と反革命、  
再編された国家間の紛争、それに重なる内  
戦。400万を超える人々が武力紛争で死亡  
し、中欧・東欧・南欧の難民が荒野をさま  
よい歩いた。「戦後」ヨーロッパは、地球  
上で最も暴力的な場所になった。

第一次世界大戦とは専制主義に対する民  
主主義の勝利であり、崩壊した帝国は時代  
錯誤な「民族の牢獄」であったという従来  
の見方は、この事態を見過ごしてきた。だ  
が、1917年から1923年のヨーロッパは、  
第二次世界大戦、そして20世紀を席捲し  
た暴力を理解する上で決定的な意味を持つ。

確かな実証性と明快な論理で無数の紛争  
を一冊に纏め上げ、新たな歴史像を見せて  
くれる本書は、第二次世界大戦におけるナ  
ショナリストとファシストの台頭を解き明  
かし、第一次世界大戦の本当の意味を問  
い直すものとして、世界的評価を得た。

学術情報センター



00724698 3

横浜市立大学

ローベルト・ゲルヴァルト

## 敗北者たち

第一次世界大戦はなぜ終わり損ねたのか 1917-1923

小原淳訳

2019年2月18日 第1刷発行

2020年1月15日 第2刷発行

発行所 株式会社 みすず書房

〒113-0033 東京都文京区本郷2丁目20-7

電話 03-3814-0131(営業) 03-3815-9181(編集)

www.ms2.co.jp

本文組版 キャップス

本文・口絵印刷所 精文堂印刷

扉・表紙・カバー印刷所 リヒトプランニング

製本所 松岳社

© 2019 in Japan by Misuzu Shobo

Printed in Japan

ISBN 978-4-622-08761-8

【はいばくしゃたち】

落丁・乱丁本はお取替いたします

### 著者略歴

(Robert Gerwarth)

1976年ベルリン生まれ。現在、ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン現代史教授および同大学戦争研究センター所長。専攻は近現代ヨーロッパ史、とくにドイツ史。著書に *The Bismarck Myth: Weimar Germany and the Legacy of the Iron Chancellor*, Oxford and New York, Oxford University Press 2005. (フレンケル賞受賞)、*Hitler's Hangman: The Life of Heydrich*, New Haven and London: Yale University Press 2011. (「ヒトラーの絞首人ハイドリヒ」宮下嶺夫訳、白水社、2016) などがある。

### 訳者略歴

小原淳(おばら・じゅん) 1975年生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程修了。現在、早稲田大学文学学術院教授。専攻はドイツ近現代史。著書に「フォルクと帝国創設」(彩流社、2011)、訳書に「J・スタインバーク『ビスマルク』(全2巻、白水社、2013)、「J・スパーバー『マルクス』(全2巻、白水社、2015)、Ch・クラーク『夢遊病者たち』(全2巻、みすず書房、2017)、R・エヴァンズ『力の追求』(全2巻、共訳、白水社、2018) などがある。